

アメリカ経済史学会第 69 回全国大会（2026 年）統一論題

製造業再建コンセンサスの形成？

ー特朗普、バイデン政権と「製造業再建」の政治経済史（仮題）

◆統一論題趣旨

21 世紀初頭まで、アメリカは規制緩和とグローバル化をめざす新自由主義的経済政策を推し進めてきた。しかし、近年のアメリカでは国内製造業の再建が超党派の政策目標として浮上している。第 1 期特朗普政権における自由貿易の見直しと関税、経済安全保障、バイデン政権における巨大産業政策、第 2 期特朗普政権における関税と対米投資拡大要求などの動きは、理念や手段を異にしながらも、製造業再建というコンセンサスを共有しているように見える。

本シンポジウムでは、これら 3 つの政権を対象として、「製造業再建コンセンサス」の歴史的背景、政策アイディアの系譜、それを支える政策・利益集団、3 つの政権の継続性と断絶性、それぞれの政策の意義と限界などの論点を検討する。そのうえで、果たしてアメリカに「製造業再建コンセンサス」が成立したと言えるのか、それは新自由主義的経済政策からの転換であると言えるのかを考察する。